

大審院判事

梶田

年著

改正商法總則論

東京
法文社
刊行

昭和十六年十月十五日初版印刷
昭和十六年十一月初版發行

改正商法總則論
定價五圓

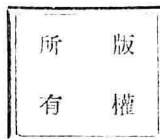
著者 梶田 年

發行者 寺澤 敬一

東京市小石川區春日町三丁目三番地

印刷者 渡邊 一郎

東京市小石川區東古川町十番地



發行所

東京市小石川區
春日町三丁目三番地

法文社

振替東京三三〇四〇番
電話小石川四九九五番

配給元

東京市神田區淡路町
二丁目九番地

日本出版配給株式會社

序 言

我が國前古未曾有の國運躍進を記念すべき皇紀二千六百年の年初から實施せられた商法中改正法律は、商法典中總則編並に會社編に根本的な改正を加へた。總則編の改正は會社編のそれの如く全面的なものではないが。商取引の基礎と爲る諸原則に觸れた改正が隨所に顯はれてゐる。例へば商人の範圍を擴大し、登記公告に公信力を與へ、商號の不正使用禁止差止の範圍を擴張し、商號と營業との關係を緊密にし、營業讓渡の場合の法律關係を調整し、營業主の責任を加重し、以て取引の安全といふことを改正の基調としてゐる。

是等の改正の結果は、商法總則の解釋理念の全般に互つて根本的に相當の影響を與へたことは否むことは出來ぬ。従て商法總則を講ずるには、改正規定の趣旨をじつくり頭に入れて從來研究論議せられた諸問題をも更に検討して見直さねばならぬことゝなつた。

本書は斯かる見地から、舊來の法規と改正規定との調和的統一解釋といふことに意を注ぎながら、商法學者諸先輩の驥尾に附して、商法總論として解説すべき事項は細大となく採り上げて、思ふ所に任せ一應の解説を試みた。固より足らざる所は將來の研究努力に俟たねばならぬ

ことは勿論であるが、兎に角商法學徒乃至實務家の道標ともなり、其の研究の土臺ともなれば本懷である。

皇紀二千六百一年六月十九日

著 者 識

凡例

(一) 卷末第十二章は、財産目録に記載すべき營業財産の評價に關するもので、本來本論第九章商業帳簿の章下に織込むべきものであるが、此の部分の印刷が出来上つた後に公表せられた令規の解説であつて、而も重要なものであるから、附録として輯録することにしたものである。

(二) 本書に引用したる著書、判例其の他の略記は概ね次の如し。外國著書其他の引用書略記は一般の用例に倣ふ。

【著書】

著者	書名	略記
松本 丞治博士	商法總論訂正再版	松本博士總論
松波 仁一郎博士	日本商法總則初版	松波博士總則
竹田 省博士	商法總論改訂増補	竹田博士總論
高窪 喜八郎博士	商法總論改訂版	高窪博士總論
志田 鉦太郎博士	商法總論六版	志田博士總論
烏賀 陽然良博士	商法要論初版	烏賀博士要論
片山 義勝博士	商法總則論五版	片山博士總則論
田中 耕太郎博士	改正商法總則概論	田中博士改正概論
田中 耕太郎博士	商法總論概要	田中博士概要
青山 衆司博士	商法總論七版	青山博士總論

凡例

三浦義道博士	商法總論初版	三浦博士總論
猪股洪清博士	日本商法總論初版	猪股博士總論
西本辰之助博士	商法總論七版	西本博士總論
寺尾元彦博士	商法原理(總則)	寺尾博士總則
田中誠二博士	改正商法要義初版	田中博士要義
村瀬直養學士	商法總論初版	村瀬學士總論
鈴川壽男學士	商法概論初版	鈴川學士概論

【判例雜誌】

誌名	略記	誌名	略記
大審院民事判決錄	大民錄	法律評論	評論
大審院民事判例集	大民集	社會雜誌	社會雜誌
法學協會雜誌	法學協報	學論	學論
法學新報	新報	學志	學志

【其他】

◇單純なる數字は、改正商法の條文……………◇非訟又非訟法は、改正非訟事件手續法……………◇商改施は、昭和十三年四月五日法律第七十三號商法中改正法律施行法……………◇商施は、明治三十三年三月九日法律第四十九號商法施行法……………◇商登取手は、商業登記取扱手續……………◇獨商は、獨逸商法……………◇佛商は、佛蘭西商法……………◇伊商は、伊太利商法……………

綜
註
釋
大
六
法
全
書

泉望原風岩穩原門森近
二野 見村積 野市衛
新季邦 遇重嘉 重左女
熊彥造章世遠道祁
閣閣氏閣閣博閣氏閣閣
下下序下下士下題下下
序序 序序序序字字字

大大大大大大大大法
審審審審審審審審學
院院院院院院院院博
判判判判判判判判士

著 共

(呈進本見容内)

聲價愈々高まる劃期的大寶典！

本書は民法・商法・刑法・總動員法は勿論改正刑法案に至る迄重要法令の全面に亙り、各條文毎に法文字句に對する説明を始め裏面に伏在する幾多の難問疑問に付判例及事例を擧げて解説を施す。

收錄法令に重要産業團體令等十月迄の最近法令を始め、無慮四百。
 参照條文は内國法條は勿論、獨・伊を始め諸外國の参照條文をも掲
 げ研究者の便を計つた。

◇四六大判・特製インデア紙・羽二重豪華装函入。堂々二千八百頁
◇全法律文化人の机上に欲しい近代の異色の書巻！

特價十三圓

◎内容體裁共に愈々刷新充實す！

最新刊

大審院判事
日本大學講師
梶田
年著
A5判 五〇頁
定價五圓・送料二二

改正商法總則論

改正商法總則の根幹を單明したる上、況ゆる問題を提へて内外の判例學說を参照批論し、微に入り細を穿ちて論述したるもの。就中營業實踐論に至りては一大論文を形成し、又最近發令の原價計算に關する新法制及會社所有株式評價に關する臨時措置令に基き、爲速く原價計算及株式評價に關する詳密な解説を施したるが如き、斷然創意に基く獨歩の境地を行く！ 將に商法總則の未だ嘗てなき壓巻！ 絕對の自信を以て學者實務家に薦む！

大審院判事 高等試験委員 犬丸 巖著 定價 一・五〇〇 送料

新體制の憲法解説

新體制の核心を衝き、汎ゆる巷説を反駁して皇國憲法の本體を解明した革新的憲法解説書！

新體制觀・國體觀・大臣責任論・大政翼賛會論・司法新體制論・自由主義―個人主義―全體主義―公益優先論―私有財產奉還論の批判等々清新潑刺の氣漲り興味駭々！

辯法文庫主幹
護士
寺澤 晉一編著
定價三・二〇 送料二二

國防保安法

東京市小石川春日町三
小石川三丁目三
電話替小石川三
電振東小石川三
話替小石川三

**法
文
社**

法文社主幹
辯護士

寺澤音一編著

最新刊

改正商法審議要綱

A 5 版約五〇〇頁
頒 價 四・五〇
送 料 二二

本書は學術研究の爲め帝國議會に於ける質疑應答の要領を、逐條毎に簡明なる目次を附して、平易明快に理解し得る様編纂した限定版である。

大審院判事
高等試験委員

犬丸 巖著

◇新體制下、國民必讀の書だ！

最新刊

新體制下の憲法解説

B 6 版
定 價 一・五〇
送 料 一〇

流暢平易の論調而も確乎不動の信念と毅然たる態度を以て新體制の核心を衝き、汎ゆる巷説を反駁して皇國憲法の本體を解明して餘す所なし。將に一大轉換期に直面する一億同胞に重大示唆を與ふる革新的憲法解説書！

最高法官にして憲法學者たる著者の新體制觀・國體觀・大臣責任論・大政翼賛會論・議會觀・政黨觀・行政機構論・司法新體制論・自由主義・個人主義・全體主義・公益優先論・私有財産奉還論の批判等々清新潑刺の氣漲り興味駭々！

法文社刊行好評書

新改正 商法 保險法論

大審院判事
中央大學講師
高等試験委員

犬丸

巖著

菊版約四〇〇頁
送料四・〇〇二

保險法學の權威たる著者が改正商法及改正保險業法等に基き保險法の全部門に亘り判例學說を引照しつゝ犀利なる論述を試みられたるもの。保險法の著述尠き折柄學者實際家を裨益する多大なるを信じ敢て江湖に推奨する。

大審院判事
日本大學講師

梶田

年著

四六版六〇〇頁
送料三・五〇六

好評註釋 改正商法總則會社法

商法學に令名ある著者が、透徹せる理論を以て改正商法の全面に互つて逐條註釋を施したるもの。手取早く改正法を理解するには最適の良著として裁判所・登記所・辯護士・會社銀行等では之を備えないものはないと云つてよい好評。

好評註釋 刑事訴訟法

大審院判事
高等試験委員

岸

達也著

新四六版四〇〇頁
送料二・一五二

刑事部判事として數十年の體驗を有する著者が、學理と實際方面より斯法の要領を把握せしむべく約千に達する大審院判例を引用しつゝ、明快なる解説を加へたる携帶至便の書。實務家・法學生・受験生に奨む！

法曹必備の寶典！

小原元法相題字 細野法學博士序

法文社主幹

寺澤

音

一編

新民事訴訟法判例總覽

訴訟編

上卷 中卷 下卷

金菊 金菊 金菊

十一判 八判 十一判

送料四・〇〇六

送料三・〇〇六

送料三・〇〇六

強制執行編

上卷 中卷 下卷

金菊 金菊 金菊

十一判 八判 十一判

送料四・〇〇六

送料三・〇〇六

送料三・〇〇六

民事訴訟法に関する判例學說を一目瞭然たらしめたるを以て複雑多岐なる訴訟法の難問も即座に解決を得らる！

改正商法總則論 目次

緒論

第一章 商の觀念

◎商の觀念

一、法律上の意義

◎概括的觀念を定むることを不能となす學說……◎商觀念を定むる立法主義

二、經濟上の意義

三、商の主體

四、商の客體

五、商の種別

◎大商と小商……◎陸商と海商……◎固有商と補助商……◎自己の爲にする商と他人の爲にする商……◎營業的商と非營業的商……◎同地商と隔地商

第二章 商法の觀念……………五

一、廣義商法……………六

◎國內商法……………◎商公法……………◎商私法(狹義商法)……………◎國際商

二、狹義の商法……………七

三、商法の性質……………七

四、商法の特色……………八

◎國際的統一傾向を有すること……………◎進歩的なること……………◎動的安全を保護すること……………

◎任意性自由性を有すること……………◎責任の加重及輕減……………◎事情裁判を認めたること……………

五、民商法統一に關する論争……………九

◎統一論の根據……………◎統一反對論の見解……………◎結論……………

第三章 商法の沿革及各國商法……………一二

一、日本商法の沿革……………一三

◎舊商法典法案起草……………◎法案審議確定……………◎法律(舊法)公布……………◎施行延期再延期……………
◎一部施行……………◎新法典、法案起草……………◎舊法典施行三回延期……………◎舊法典の殘部の

本論

第一編 總則

二、諸外國の商法

- 一部分的實施……
- 新法典の成立實施……
- 新法の改正……
- 明治四十四年の大改正……
- 昭和十四年の大改正……
- 法典編纂前の商法規
- 舊商法（一八六一年）……
- 獨新商法（一八九七年）……
- 獨新商法の改正……
- 佛國商法……
- 西班牙商法……
- 和蘭商法……
- 埃及商法……
- 伊太利商法……
- 英國商事法……
- 米國商事法……
- 舊露國の商法……
- 瑞西其他の商事法……
- 滿洲國商事法

一六

第一章 商法の法源

一、商法の法源の意義

- 商法の法源と民事規定

三三

二、商法の法源の範圍

- 商法典……
- 商法附屬法令……
- 商事特別法令……
- 商事自治法規……
- 公共團體の

三三

條例規則……●公共組合の規約……●業務規程、普通保險約款……●會社の定款……●
附合契約の約款……●條約の商事規定……●商事慣習法……●成立の要件……●慣習法
の法令變更力の有無……●慣習法成否の判斷……●判例の認めたる商事慣習法

三、條理實驗則及判例……………二八

第二章 商事適用法規の順序……………二九

一、商法第一條の内容……………二九

二、商事の意義……………二九

三、商事適用法規の種類……………三〇

●商法法源の諸法規……●民事法規……●民事自治法規……●民事特別法令……●條約
中民事規定……●民事慣習法

四、商事適用法規の順序……………三〇

●商事法規の適用順序……●民事法規の適用順序……●民商法規を通じたる適用順序……
……●條理を含む實驗則の最後位適用

五、商法第一條と法例第二條との關係……………三一

●商法第一條廢止論……●商法第一條存置論

第三章 商法適用の限界(範圍)……………三五

一、商法の適用事項の範圍……………三六

二、時に關する商法適用の限界……………三六

◎不遡及の原則……………◎不遡及の原則に對する例外……………◎商法改正規定に對する例外……………

◎其他の例外……………◎商法の遡及力を認めたる理由……………

三、地域に關する商法の適用範圍……………三七

◎内地……………◎樺太……………◎臺灣……………◎朝鮮……………◎關東州……………◎南洋群島……………◎沖繩……………

各地域間の商事法規の形式的效力を調和する共通法……………

四、人に關する商法の適用範圍……………四〇

◎領事裁判施行地域に於ける日本人……………◎屬人法と屬地法との牴觸の場合の準據法……………

第四章 商行爲に關する商法の適用範圍……………四一

一、公法人の商行爲……………四二

◎公法人の商行爲に關する特別法令の例……………◎公法人の商行爲に適用せらるゝ商法の規……………

定……………

二、公法人の意義……………四三

◎公法人の種類……◎公法人の商行為をなす事例

三、一方的商行為の當事者双方に對する商法の適用（商

法第三條第一項の趣旨）……………四四

◎右適用の結果

四、當事者數人中の一人のみに付き商行為なる行為に對する商

法の適用（第三條第二項の趣旨）……………四六

◎第三條の解釋的結論

第五章 商人……………四七

第一節 總說……………四七

一、商人の意義を定むる立法主義……………四七

◎實質主義……◎形式主義……◎折衷主義

二、經濟上及他の法令に於ける商人の意義……………四八

三、商人たる能力……………四九

四、商人の種別

- 自然人の商人たる能力……………● 私法人の商人たる能力……………● 公益法人……………● 社寺等……………
- 法人たる相続財産……………● 特別法の間接法人（非營利法人）……………● 營利（社團）法人……………● 公法人の商人たる能力……………● 國家地方公共團體……………● 公共組合……………
- 內國商人と外國商人……………● 國內商人と國際商人……………● 陸商人と海商人……………● 自然人商
人と法人商人……………● 能力者商人と無能力者商人……………● 普通商人と小商人……………● 固有商人
と補助商人……………● 卸商人と小賣商人……………● 實質商人と擬制商人……………● 商行爲商人と非商
行爲商人……………

五

第二節

本來の商人（商行爲商人實質商人）

……………五

一、本來の商人（實質商人）の意義

……………五七

二、營業の意義

……………六〇

三、營業の單複と商人の數

……………六三

- 要件……………● 不斷の收益を得る目的……………● 繼續の意思……………● 同種の營利行爲……………
- 營業の單複を區別する實益……………● 營業の單複區別の標準……………